

# APVN GA 2024 開催報告

2024年12月18日  
塩ビ工業・環境協会

- APVN(Asia Pacific Vinyl Network)の General Assembly(総会)が2024年11月21日にバリ(インドネシア)で開催されました。
- 塩ビの世界的業界ネットワークである GVC(Global Vinyl Council)は、APVN(アジア大洋州地域)、VI(Vinyl Institute)(北米)、ECVM(European Council of Vinyl Manufacturers)(欧州)の主要3極からなります。
- APVNは2005年に有限責任中間法人(現在は一般社団法人)として日本で設立され、アジア・大洋州地域における塩ビや化学物質に関する情報の普及と啓発活動に取り組んできました。
- APVNの総会は、法人設立以前の1999年より毎年アジア・大洋州の各地域で開催され、今回で29回目となります。コロナでオンライン開催となった時もありましたが、メンバーの親睦を図る意味からも、基本的にフェイス to フェイスの開催を志向してきました。
- APVN全メンバー(日本、韓国、台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、パキスタン、(オーストラリア))のPVC設備能力は約780万トンで、世界の15%程度とみられています。
- APVNの議長はガンディ氏(アサヒマスインドネシア)でしたが、2025年からはクルストン氏(豪州塩ビ協会)となります。
- 本日は、APVN GAでの各国のトピックスについて、主なものをご紹介します。

## ○アジアのPVC市場

インドは、下グラフの通り、今後年率6~8%の市場成長が見込まれております。

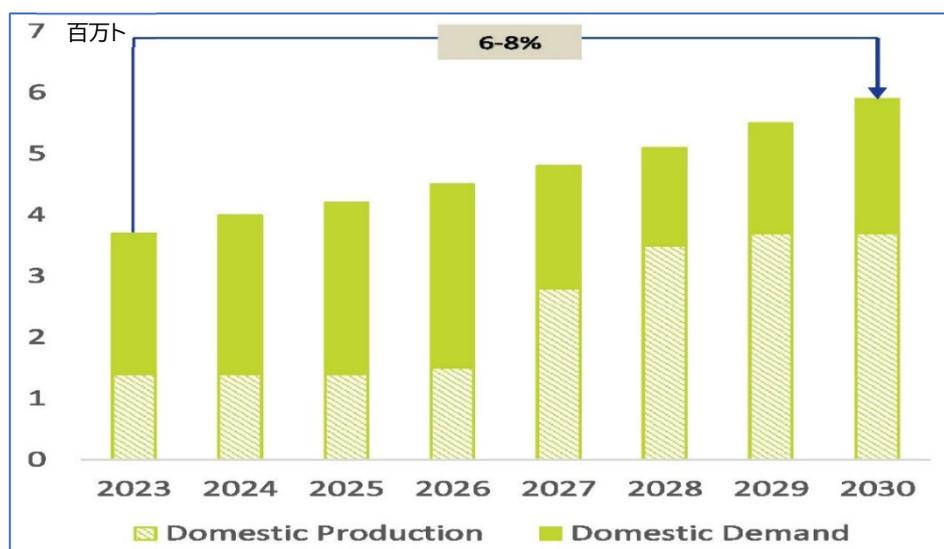


図.1 インドのPVC市場の推移予測

2024年で約400万トンの市場規模ですが、輸入に大きく依存しているため、2026年以降200万トン以上の大幅な設備増強計画があります。それでも輸入ポジションであること

に変わりはないとみられています。

東南アジアの 2024 年時点での PVC 生産能力は約 250 万トン、市場規模は約 285 万トンとみられています。これまで 7%程度の市場成長がありました。今後成長率は小さくなってゆくものとみられています。それでも 2025 年以降インドネシア、タイ、ベトナムで数百万トン程度の設備増強計画があるとされています。また、ベトナムが一番成長しており、東南アジア総需要の 36%を占め、市場成長率も一番大きいとのことでした。

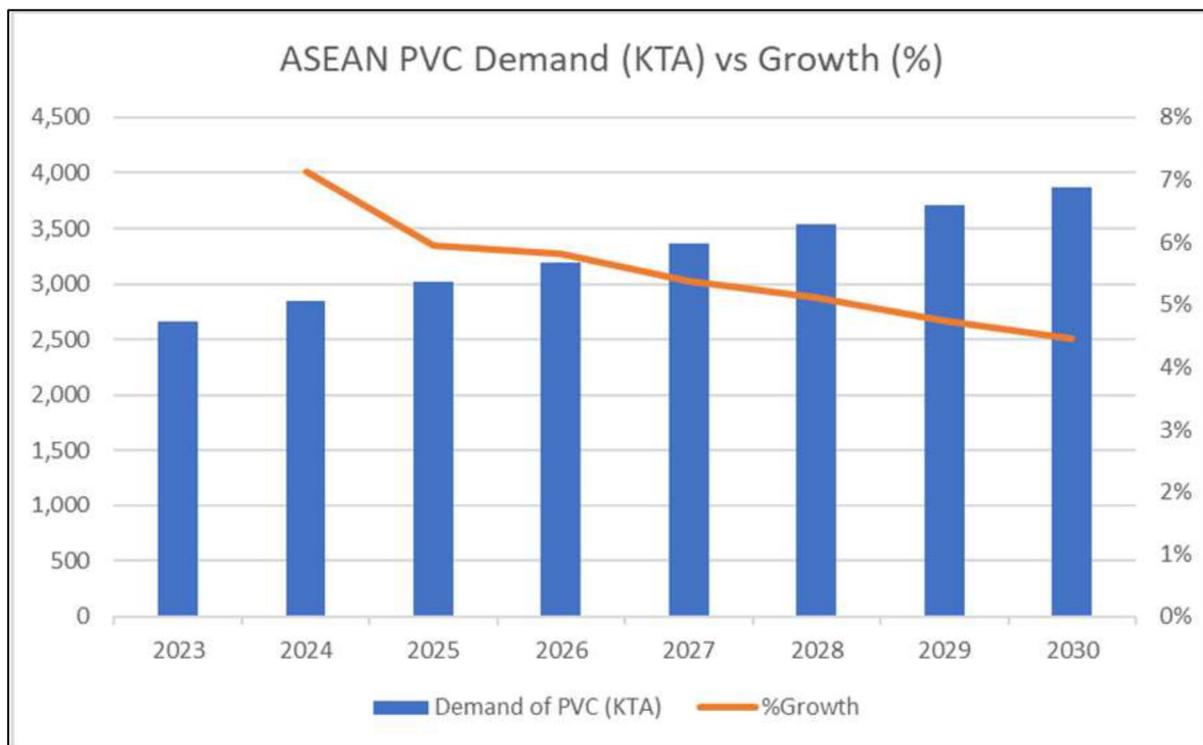


図.2 東南アジアの PVC 市場の推移予測

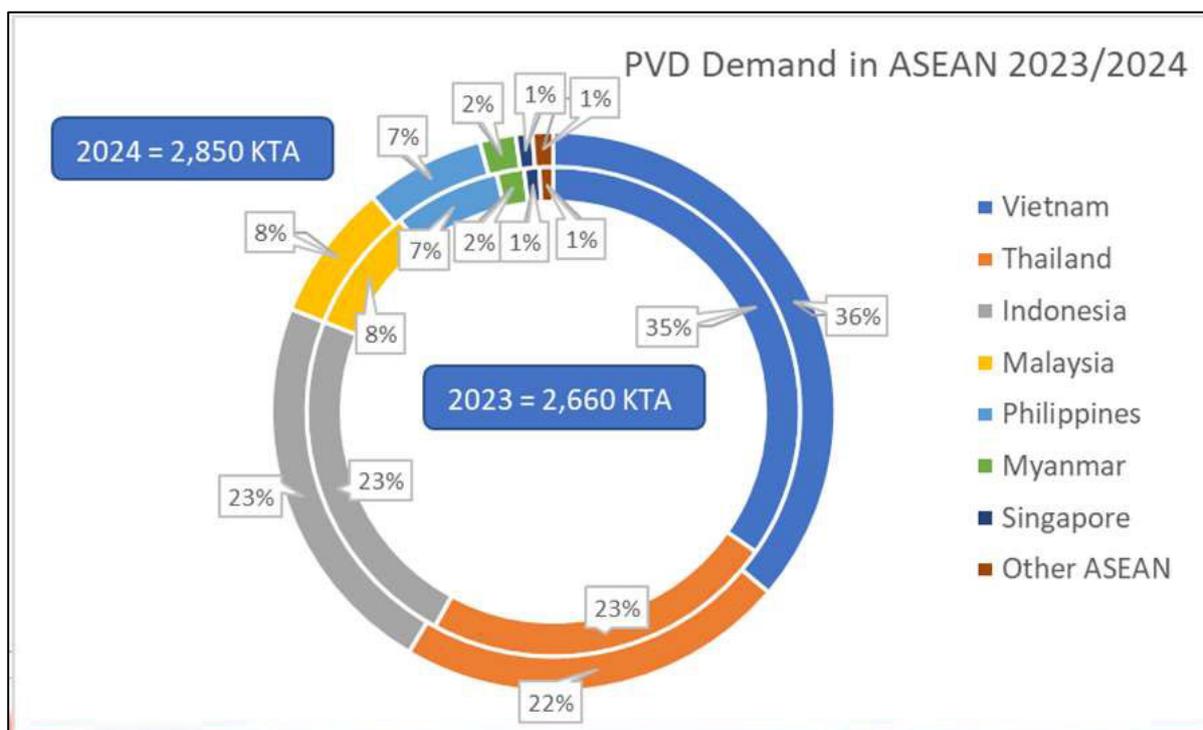


図.3 東南アジアの PVC 市場規模(国別)

## ○非鉛化の動き

タイ、フィリピンでは PVC パイプの非鉛化が PVC 業界の自主的活動により進んでおりました。2021 年から 2022 年にわたりその工業規格化が進められており 100%の非鉛化を目指しているところですが。インドネシア、ベトナムでは PVC 業界の自主的活動により PVC パイプの 60~70%の非鉛化が進んでいるとのこと。インドでも政府の方針に従い、PVC パイプの非鉛化に進んでいるとの報告がありました。

また、タイでは 2023・2024 年に PVC 業界が電線・ケーブル業界と共同して電線被覆材の非鉛化のプログラム(セミナー開催及び規格化の準備)を展開しているとのことでした。

日本からの PVC 製品および再生 PVC の輸出にも影響があるものと思われます。

## ○PVC のリサイクル

日本では、(一社)プラスチック循環利用協会がプラスチックのマテリアルフロー図を公開<sup>\*1</sup>し、プラスチックのリサイクル率アップに貢献しています。(一社)日本化学工業協会を主体とする海洋プラスチック問題協議会(JaIME)はこのプラスチックのマテリアルフロー分析の取り組みについて東南アジアに展開(AOTS((財)海外産業人材育成協会)のプラットフォームを活用した人材育成)しています。その考え方はタイ、インドネシアにおいて、PVC 業界を起点に広められております。タイの PVC のマテリアルフローは用途毎に細分化されており、PVC 製品のリサイクル率の向上に貢献していることが報告されました。中でも、オーストラリア、欧州、米国に続いてタイで医療用 PVC 製品のリサイクルが始まったことがトピックス的に報告されました。

\*1:プラスチックリサイクルの基礎知識 <https://www.pwmi.or.jp/news/new/post-2522/>

## ○その他地域

インド・東南アジアの塩ビ市場は依然として拡大途上にありますが、日本、韓国、台湾、オーストラリア、パキスタンの塩ビ市場規模は減少傾向にあります。

韓国の PVC 生産能力は 160 万トン強ですが、国内需要は 90 万トン程度であり、2017 年以降減少傾向が止まっていないようです。PVC 需要分野としては、日本と異なりカレンダー用(オンドルなどの床材向け)31%、樹脂窓用 29%、パイプ・接手用 18%と特徴的です。トピックスとしては、PVC のリサイクル数量が大幅に減少していることです。韓国は、PVC 樹脂窓、PVC 床材、PVC パイプのリサイクルには EPR(拡大生産者責任)が適用されているにもかかわらず 2021 年比で 2023 年は 25%も数量を減らしていました。バーゲン品との価格競争や市場の冷え込み、要求物性の厳しさなどがその理由として挙げられていました。

台湾の PVC 生産能力は約 190 万トンで、稼働率は 92%程度とのこと。うち国内市場向けは 24%で残りは輸出しているとのことでした。台湾でもプラスチックのマテリアルフローが作成されていました。プラスチック全体では 1,250 万トン生産され、70%が輸出、30%が国内市場向けで、国内市場の 3 割程度がリサイクルあるいはリユースされているとのことでした。ごみ問題に関しては、タイムラグはあれ、ほぼ日本と同じような推移をたどっています。熱回収を含む焼却処分が廃プラスチック処理の過半となっているとのことでした。台湾で特徴的だったのは、宗教活動家が 1990 年にプラスチックリサイクルのボラン

ティア活動を始め、これが広まったということでした。今では政府により、過剰包装の禁止や使い捨てプラスチックの規制が導入され、2025年に容器包装プラスチックのリサイクル率50%、再生プラスチックのプラスチック製品への利用25%目標を目指しています。

オーストラリアのプラスチックの市場規模は約400万トンで、そのうちの12%の約46万トンがPVCとのことです。PVCの原料輸入が20万トンほどありますので、PVC製品の輸入が残りの26万トンあるということになります。また、豪州の再生PVCの活用は4,000トン強といったところで、2023年はその4割程度は輸入再生PVCに頼っている現状のようです。

パキスタンのPVCメーカーは現在 Engro Polymer 1社のみで、その生産能力は29.5万トンです。これで、市場の86%との報告ですので、パキスタン全体の市場規模は34万トン程度ということになります。PVCの国内市場は建築・建設向けが多いものの、その市場は不安定でここ数年はマイナス成長のようです。Engro Polymerの活動として特徴的なものが、「thinkPVC」\*2というPVCの用途をプロモートする展示設備(Display Center)を作り一般公開しているところです。市場、ユーザーとの対話を通じて、PVC製品への理解や品質向上に注力しているとのことでした。また、パキスタンの廃プラスチックの輸入は6.3万トンほどあり、うち20~25%が廃PVCとのもので、今後国際法に準拠して、これらを低減してゆく方針であることも報告されました。

\*2: think PVC <https://www.thinkpvc.com/>

なお、2025年APVN総会は初めての台湾開催を予定しています。

以上